

問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答	解説
4	89	概要 障害と対応との組合せで正しいのはどれか。	能力低下— —麻痺肢 の筋力回復 訓練	筋力低下— —装具の 処方	機能・形態 障害— —家屋改造指 導	機能・形態 障害— —ADL訓練	2	
5	89	概要 障害とそのアプローチとの組合せで誤っているのはどれか。	機能障害— —合併症 の予防	機能障害— —装具に よる歩行訓 練	能力低下— —利き手 交換訓練	社会的不利 —家屋 改造	2	
6	89	概要 内部障害に含まれないのはどれか。	聴覚障害	腎障害	呼吸器障害	循環器障害	1	
7	89	概要 障害のうち能力低下への対応で誤っているのはどれか。	車椅子処方	ADL訓練	利き手交換	家屋改造	4	
8	89	概要 社会的不利について正しい記述はどれか。	一人で服を着替えることができない。	麻痺のため手が動かない。	車椅子の操作ができない。	段差があり車椅子で公園に入れない。	4	
9	89	概要 内部障害はどれか。	視覚障害	聴覚言語障害	肢体不自由	膀胱直腸障害	4	
11	89	概要 身体障害者手帳の交付が最も多いのはどれか。	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害	3	
12	89	概要 IL運動(自生活運動)の思想で正しいのはどれか。	身の回りのことで他人の助けを借りてはならない。	障害者の自己決定には責任と義務を伴う。	職業を身につけることを最高の目標とする。	障害者だけが住む施設内で生活する。	2	
14	87	概要 成人の身体障害者について正しい記述はどれか。	嚙下傷害は聴覚・言語障害に分類される	最近では視覚障害者の増加率が最も高い	糖尿病は内部障害者として分類される	肢体不自由障害者の割合が最も多い	4	
15	84	概要 我が国で身体障害者手帳の対象とならない病態はどれか。	片麻痺	失語症	記憶障害	慢性腎不全	3	
16	86	概要 関節可動域の測定基本肢位について誤っている組み合わせはどれか。	肘関節屈曲— —前腕回 内位	手関節橈屈— —前腕回 内位	前腕回内— —肘関節 90度屈曲位	肩関節外旋— —肘関節 90度屈曲位	1	1. 肘関節屈曲—前腕回外位 2. 正解 3. 正解 4. 正解
16	87	概要 日常生活動作の評価法の1つであるバーセル・インデックスの評価項目に含まれないのはどれか。	コミュニケーション	移乗	トイレ動作	入浴	1	バーセル・インデックスは日常生活動作の機能面を評価する評価法で、心理面を評価するものではない。 1. 含まれない 2. 含まれる 3. 含まれる 4. 含まれる

18	84	概要	身体障害者の分類で割合が増加しているのはどれか。	肢体不自由	視覚障害	内部障害	聴覚・言語障害	3	身体障害者で最も多いのは肢体不自由であるが、近年の生活習慣病の増加により内部障害の割合が急激に増加している。内部障害には心機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害、膀胱または直腸機能障害、呼吸機能障害、小腸機能障害、免疫機能障害に大別される。
18	85	概要	国際生活機能分類(ICF)について正しい記述はどれか。	対象を障害者に限定して作成された分類法である。	各構成要素の因果関係は両方向性である。	生活機能とは日常生活動作のことである。	個人因子とは健康状態のことである。	2	ICFは以下に分類される 1. 生活機能と障害 1) 心身機能・身体構造 2) 活動 3) 参加 2. 背景因子 1) 環境因子 2) 個人因子 それぞれの要素は相互作用を有している 1. 全ての人を対象とした分類法である 2. 正解 3. 身体、個人、社会レベル全体を包括的に捉えた働きを意味する 4. 個人の人生や生活の特別な背景で健康状態
19	84	概要	IL運動(自立生活運動)の思想で正しいのはどれか。	家族から経済的援助を受ける	障害者施設に入所する	自己決定権を尊重する	日常生活で介助を受けない	3	
19	85	概要	在宅ケアとして利用されるのはどれか。	脳卒中ケアユニット	通所リハビリテーション施設	重度心身障害児病棟	回復期リハビリテーション病棟	2	
20	84	概要	身体障害者手帳の交付対象でないのはどれか。	じん臓機能障害	そしゃく・嚥下機能障害	平衡機能障害	高次脳障害	4	

20	85	概要	回復期リハビリテーション病棟における評価会議について適切でない記述はどれか。	病棟看護師は参加する。	評価が完了してから治療を開始する。	治療経過によりゴール設定を変更する。	全ての症例に行う。	2	
21	84	概要	身体障害者手帳の種類と原因疾患との組合せで正しいのはどれか。	平衡機能障害 — 変形性膝関節症	肢体不自由 — ベル麻痺	そしゃく機能障害 — 筋萎縮性側索硬化症	内部障害 — パーキンソン病	3	
22	84	概要	国際生活機能分類 (ICF) の構成要素で「参加」に該当するのはどれか。	屋内手すりの設置	短下肢装具の作製	残存筋の強化	麻痺手の回復訓練	1	
25	82	概要	車いすのタイプで、起立性低血圧発作のある場合に用いるのはどれか。	リクライニングタイプ	スポーツタイプ	トラペザータタイプ	スタンダードタイプ	1	
26	82	概要	ICF の「活動」に該当するのはどれか。	復学	家屋改修	障害年金受給	義足作製	4	
26	86	概要	医学的リハビリテーションで、在宅復帰への対応として積極的に推し進めるべきことはどれか。	廃用症候群の予防	障害受容への援助	職業訓練	麻痺の改善	2	
26	87	概要	サルコペニアで必ず減少するのはどれか。	骨密度	骨格筋量	循環血流量	脂肪量	2	
27	73	概要	障害モデルとして用いられているのはどれか。	ADL	ICF	MMT	QOL	2	
28	81	概要	回復期リハビリテーション病棟で作業療法としてよく行われるのはどれか。	歩行訓練	巧緻動作訓練	嚥下訓練	立ち上がり動作訓練	2	
29	71	概要	介護保険制度による在宅ケアはどれか。	共同生活援助	就労移行支援	地域定着支援	通所リハビリテーション	4	
29	72	概要	回復期リハビリテーションの内容として最も適切なのはどれか。	就労支援	歩行能力の向上	人工呼吸器の離脱	意識障害の覚醒促進	2	
29	73	概要	原発性サルコペニアの発症要因はどれか。	廃用性萎縮	加齢	低栄養	悪性腫瘍	2	
29	74	概要	失語症の分類で、自分の考えていることを言語でうまく表現できず、発話が非流暢的で、復唱も障害されるのはどれか。	全失語	運動性失語	感覚性失語	伝導失語	2	

	問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答	解説
1	89	評価	運動障害の評価法で正しいのはどれか。	足関節の基本肢位を90°とするのは誤りである。	徒手筋力テストは4段階評価法である。	ブルンストロームのステージは末梢性麻痺に対する評価段階である。	長谷川式スケールは関節可動域の評価法である。	1	
3	91	評価	関節運動が重力に抗して全可動域にわたり可能となる最小の筋力はどれか。	筋力1	筋力2	筋力3	筋力4	3	
1	89	評価	運動障害の評価法で正しいのはどれか。	足関節の基本肢位を90°とするのは誤りである。	徒手筋力テストは4段階評価法である。	ブルンストロームのステージは末梢性麻痺に対する評価段階である。	長谷川式スケールは関節可動域の評価法である。	1	
3	91	評価	関節運動が重力に抗して全可動域にわたり可能となる最小の筋力はどれか。	筋力1	筋力2	筋力3	筋力4	3	
6	90	評価	弛緩性麻痺の評価で適切でないのはどれか。	ブルンストロームのステージ	日常生活動作テスト	徒手筋力テスト	四肢周径の測定	1	
7	90	評価	障害の評価の目的で適切でないのはどれか。	疾患原因の検討	障害原因の検討	治療目標の設定	治療方法の検討	1	
7	92	評価	日常生活動作として適切でないのはどれか。	歩行	買物	食事	更衣	2	
8	92	評価	関節可動域測定で誤っている記述はどれか。	肩の屈曲は肩峰を通る床への垂直線を基本軸とする。	手関節の屈曲は橈骨と第5中手骨との角度を測る。	股関節の外転は大腿中央線を移動軸とする。	膝の屈曲は大腿骨と腓骨との角度を測る。	2	
10	89	評価	関節運動で伸展40°が可能な関節はどれか。	肩関節	肘関節	股関節	膝関節	1	
10	91	評価	廃用症候群に含まれないのはどれか。	筋萎縮	麻痺	関節拘縮	褥瘡	2	
10	96	評価	トーマステストの目的はどれか。	腰部神経根圧迫の有無	背筋の緊張の有無	腸腰筋拘縮の有無	ハムストリングス短縮の有無	3	
12	90	評価	改訂長谷川式簡易知能評価スケールの質問内容で誤っているのはどれか。	年齢	言葉の記憶	数字の逆唱	漢字の読み	4	

12	93	評価	母指と示指で輪を作ることが模倣できない患者で疑われるのはどれか。	半側空間無視	構成失行	観念失行	観念運動失行	4	
13	90	評価	徒手筋力テストにおいて、重力に逆らうことはできないが、重力がなければ動かせると筋肉のグレードはどれか。	MMT4	MMT3	MMT2	MMT1	3	
13	91	評価	廃用症候群の症候として正しいのはどれか。	意識障害	関節拘縮	尿失禁	けいれん	2	
13	92	評価	下肢の筋緊張が増強しないのはどれか。	頸髄不全麻痺	パーキンソン病	痙直型脳性麻痺	腰椎椎間板ヘルニア	4	
14	89	評価	大腿四頭筋の徒手筋力テストの際、被験者を側臥位で評価しなければならない筋力は何級か。	MMT0	MMT2	MMT3	MMT5	2	
14	90	評価	ADLに分類されるのはどれか。	買い物	自動車運転	整容	バス乗車	3	
14	91	評価	長期臥床でみられやすい拘縮として誤っているのはどれか。	肩関節屈曲	股関節屈曲	膝関節屈曲	足関節屈曲(底屈)	1	
15	85	評価	次の運動のなかで関節可動域の角度が最大なのはどれか。	肩関節伸展(後方挙上)	手関節屈曲(掌屈)	股関節外転	膝関節伸展	2	
17	84	評価	徒手筋力テストで筋の収縮はみられるが、関節運動は起こらないのはどれか。	MMT1	MMT2	MMT3	MMT4	1	1. 正解 2. 重力を除けば関節運動が可能 3. 負荷を除けば重力に抵抗して関節運動が可能 4. 弱い抵抗に逆らって関節運動が可能
17	88	障害の評価	高次脳機能障害はどれか。	半側空間無視	意識障害	食欲亢進	不眠	1	高次脳機能障害は失語、失行、失認に大別される。 1. 失認 2. 誤り 3. 誤り 4. 誤り

18	89	障害の評価	下肢のブル ンストローム ステージで 「共同運動 がわずかに 出現し、痙 性が出始め る。」のはど れか。	ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ	ステージⅣ	2	1. 髄運動が 見られず、 弛緩性麻痺 2. 共同運動 がわずかに 出現した状 態で痙性が 出始める 3. 随意的な 共同運動と して関節運 動が可能 痙性は高度 4. 共同運動 パターンが 崩れて分離 運動が可能 痙性は弱く なる
19	86	評価	高次脳機能 障害とその 症状との組 合せで正し いのはどれ か。	失語症 — 書字が小さ くなる	相貌失認 — 簡単な手指 の模倣	半側空間失 認 — 片側の見落 とし	失行 — 集中力の低 下	3	
20	87	評価	嚥下機能障 害に対する スクリーニ ングとして用 いられる検 査はどれ か。	水飲みテス ト	嚥下造影検 査	血清CRP	胸部単純 エックス線 検査	1	
21	85	評価	関節可動域 測定法につ いて正しい 記述はどれ か。	自動運動で 測定する際 にはその旨 を明記す る。	10度単位で 測定する。	基本肢位を 90度として 表示する。	筋の短縮を みるには多 関節筋を弛 緩させる。	1	
21	86	評価	痙縮の評価 に用いるの はどれか。	徒手筋力テ スト	アシュワ ールスケール	内田-クレ ペリンテスト	パーセルイ ンデックス	2	
22	86	評価	ADL評価の FIMにおい て正しいの はどれか。	書字の項目 がある	認知項目が ある	各項目の点 数は0点から 10点である	総点は100 点である	2	
24	81	評価	標準失語症 検査におい てブローカ 失語の正解 率が最も低 い項目はど れか。	聴く	読む	話す	復唱	3	
25	81	評価	中殿筋の MMTについ て正しい組 合せはどれ か。	MMT1 — 中殿筋に筋 収縮がみら れる。	MMT2 — 重力に抗し て股関節外 転を保持で きる。	MMT3 — 中等度の抵 抗に抗して 股関節外転 を保持でき る。	MMT4 — 高度の抵抗 に抗して股 関節外転を 保持でき る。	1	
27	74	評価	FIMに含ま れる運動項 目はどれ か。	食事	調理	洗濯	買い物	1	
28	74	評価	徒手筋力テ ストで正しい のはどれ か。	MMT1では 筋収縮が全 く認められ ない。	MMT2では 筋収縮はみ られるが関 節運動は起 こらない。	MMT3では 抵抗を加え なければ重 力に抗して 正常可動域 いっぱい 動く。	MMT4は筋 力正常であ る。	3	

	問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答	解説
1	92	医学的リハ	誤っているのはどれか。	超音波療法は一種の温熱療法である。	紫外線療法は紫外線の化学作用を利用している。	低周波療法は低周波の温熱作用を利用している。	水治療法は水の温度、浮力、抵抗などを利用する療法である。	3	
2	91	医学的リハ	運動法について正しい記述はどれか。	フレンケル体操は慢性関節リウマチのための体操である。	等尺性運動は等張性運動より筋力増強効果が大きい。	運動によって肺活量は増加しない。	松葉杖は片麻痺の歩行訓練に適している。	2	
2	92	医学的リハ	言語障害について誤っている組み合わせはどれか。	運動性失語症——ブローカ中枢	感覚性失語症——ウェルニッケの中核	構音障害——体性感覚野	失語症——左側大脳半球損傷	3	
3	90	医学的リハ	コルセットの作製に関与しない職種はどれか。	理学療法士	作業療法士	義肢装具士	臨床工学技士	4	
1	92	医学的リハ	誤っているのはどれか。	超音波療法は一種の温熱療法である。	紫外線療法は紫外線の化学作用を利用している。	低周波療法は低周波の温熱作用を利用している。	水治療法は水の温度、浮力、抵抗などを利用する療法である。	3	
2	91	医学的リハ	運動法について正しい記述はどれか。	フレンケル体操は慢性関節リウマチのための体操である。	等尺性運動は等張性運動より筋力増強効果が大きい。	運動によって肺活量は増加しない。	松葉杖は片麻痺の歩行訓練に適している。	2	
2	92	医学的リハ	言語障害について誤っている組み合わせはどれか。	運動性失語症——ブローカ中枢	感覚性失語症——ウェルニッケの中核	構音障害——体性感覚野	失語症——左側大脳半球損傷	3	
3	90	医学的リハ	コルセットの作製に関与しない職種はどれか。	理学療法士	作業療法士	義肢装具士	臨床工学技士	4	
4	92	医学的リハ	運動療法について誤っているのはどれか。	ブルンストローム法：関節可動域訓練	デローム法：筋力増強訓練	フレンケル体操：協調性訓練	ボバース法：神経筋再教育	1	
10	94	医学的リハ	温熱療法の効果で誤っているのはどれか。	血液循環の改善	新陳代謝の抑制	痛みの軽減	痙性の抑制	2	
11	90	医学的リハ	種一的手段を用い、応用動作の向上や社会適応能力の回復を目的として行われるのはどれか。	理学療法	作業療法	心理療法	ソーシャルワーク	2	
13	89	医学的リハ	職種と業務内容との組合せで正しいのはどれか。	言語聴覚士——人工内耳の作製	作業療法士——自具の作製	理学療法士——神経ブロック注射	介護支援専門員——腰痛体操の指導	2	
13	93	医学的リハ	病態と装具との組合せで正しいのはどれか。	外反母趾——長下肢装具	正中神経麻痺——コックアップスプリント	脳卒中片麻痺——P-TB装具	頸椎圧迫骨折——体幹装具	4	
14	88	医学的リハ	介護支援専門員の業務内容で正しいのはどれか。	介護度の認定	訪問介護の実施	居宅療養管理指導	ケアプランの策定	4	
15	87	医学的リハ	痙攣の理学療法として有効でないのはどれか。	温熱療法	痙攣筋の筋力増強	痙攣筋の持続伸張(ストレッチ)	拮抗筋の収縮	2	
15	88	医学的リハ	短下肢装具がもたらされるのはどれか。	下腿切断	変形性膝関節症	総腓骨神経麻痺	閉塞性動脈硬化症	3	
18	87	医学的リハ ピリテーション	筋力MMT2の関節運動に対し、筋力増強目的で運動療法を行なう場合に、最も適切なのはどれか。	他動運動	自動運動	自動介助運動	漸増抵抗運動	3	1. MMT2に達しない場合や意識障害のある場合 2. MMT3以上 3. MMT2の場合 正解 4. 筋力増強の目的で行う(MMT5)
20	88	理学療法	深部組織への温熱効果が最も高い物理療法はどれか。	低周波療法	超音波療法	紫外線療法	赤外線療法	2	
23	81	理学療法	温熱療法はどれか。	紫外線療法	極低温法	低周波電気療法	極短波療法	4	

	問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答	解説
1	94	脳卒中	脳血管障害で誤っているのはどれか。	弛緩性麻痺に始まり次第に痙性麻痺なることが多い。	失語症は発声器官の麻痺による。	知覚および視覚に障害のない失認症がある。	拘縮の予防または治療のために関節可動域訓練が必要である。	2	
2	93	脳卒中	脳卒中後片麻痺について正しい記述はどれか	片麻痺からは骨粗鬆症にならない	麻痺の程度と排尿障害の程度とは無関係である	痙性の出現によって内反尖足が起こる	関節可動域訓練によって肩関節の亜脱臼が起こりやすい	3	
3	93	脳卒中	脳卒中後遺症について正しい記述はどれか。	左片麻痺に失語症が起こる。	右片麻痺に失認症が起こる。	麻痺側肩関節に亜脱臼が起こる。	発症初期から強い痙性麻痺が起こる。	3	
3	94	脳卒中	脳卒中患者の背臥位における良肢位保持について正しい記述はどれか。	マットレスは柔らかいものとする。	肩甲帯を後方に引く。	股関節は内旋外旋中間位とする。	足関節は底屈位とする。	3	
1	94	脳卒中	脳血管障害で誤っているのはどれか。	弛緩性麻痺に始まり次第に痙性麻痺なることが多い。	失語症は発声器官の麻痺による。	知覚および視覚に障害のない失認症がある。	拘縮の予防または治療のために関節可動域訓練が必要である。	2	
2	93	脳卒中	脳卒中後片麻痺について正しい記述はどれか	片麻痺からは骨粗鬆症にならない	麻痺の程度と排尿障害の程度とは無関係である	痙性の出現によって内反尖足が起こる	関節可動域訓練によって肩関節の亜脱臼が起こりやすい	3	
3	93	脳卒中	脳卒中後遺症について正しい記述はどれか。	左片麻痺に失語症が起こる。	右片麻痺に失認症が起こる。	麻痺側肩関節に亜脱臼が起こる。	発症初期から強い痙性麻痺が起こる。	3	
3	94	脳卒中	脳卒中患者の背臥位における良肢位保持について正しい記述はどれか。	マットレスは柔らかいものとする。	肩甲帯を後方に引く。	股関節は内旋外旋中間位とする。	足関節は底屈位とする。	3	
4	93	脳卒中	失語症について誤っている記述はどれか。	運動性失語は発声器官が正常でも起こる	大脳の劣位半球障害で起こる	言語訓練には家族の協力をも求める	言語訓練の内容は失語症の種類により異なる	2	
5	91	脳卒中	脳卒中患者の動作について正しい記述はどれか。	衣服を脱ぐときは健側から行う。	ベッドから起きるときは患側を下にして行う。	ベッドからの移乗では車椅子を患側に置く。	階段は健側から降りる。	1	
5	95	脳卒中	脳卒中患者の合併症はどれか。	けいれん	視床痛	肩手症候群	失語症	234	
6	93	脳卒中	脳卒中中の障害で誤っている記述はどれか。	多発性梗塞は痴呆の原因となる。	舌、口唇の麻痺は失語症の原因となる。	嚥下障害は肺炎の原因となる。	肩手症候群は上肢痛の原因となる。	2	
7	93	脳卒中	脳卒中中の回復に関して誤っている記述はどれか。	ブルンストロームのステージに従って回復する。	発症後6か月ころから回復が著明となる。	上肢の回復予後は一般に悪い。	ホームプログラムは機能維持に有用である。	2	

8	93	脳卒中	脳卒中片麻痺患者リハビリテーションについて誤っている記述はどれか。	家屋の構造を知る必要がある。	介助の軽減は目的の一つとなる。	発症後6か月で完結させる。	弛緩麻痺の期間が長いと到達レベルは低い。	3	
9	92	脳卒中	片麻痺の理学療法で正しい記述はどれか。	マット上で膝立ち訓練を行う。	立位保持は膝の過伸展を利用する。	杖歩行では杖の次に健側下肢を前に出す。	浴槽へは患側下肢から入る。	1	
10	95	脳卒中	脳卒中急性期の背臥位での良肢位として誤っているのはどれか。	枕を高めにする。	患側肩甲帯を前に出す。	両骨盤を水平にする。	股関節を内外旋中間位にする。	1	
11	94	脳卒中	脳卒中による右片麻痺患者にみられる症状で誤っているのはどれか。	失語症	左半側空間失認	両眼での右側視野の欠損	右上下肢の知覚障害	2	
12	92	脳卒中	脳卒中のリハビリテーションで正しい記述はどれか。	意識障害が強い患者では関節可動域訓練は禁忌である。	坐位が安定していなくても歩行訓練を開始する。	歩行が自立していなくてもセルフケア訓練を開始する。	下肢麻痺が共同運動レベルでは装具歩行ができない。	3	
15	90	脳卒中	ウェルニッケ失語で正しいのはどれか。	流暢な発語	聴覚の異常	麻痺性の構音障害	見当識障害	1	
16	85	脳卒中	脳梗塞において運動負荷が禁忌となるのはどれか。	安静時心拍数90/分	収縮期血圧150mmHg	拡張期血圧120mmHg	上室性期外収縮	3	脳卒中患者では循環器系への影響が著しく、運動療法においても心拍、血圧を管理してリスクコントロールが重要である。 アンダーソン・土肥の基準 (I)訓練を行わないほうが良い場合 安静時脈拍120/分以上 安静時血圧収縮期200mmHg以上 拡張期120mmHg以上 労作性狭心症 1ヶ月以内の心筋梗塞 訓練前からの動悸、息切れ 明らかな心不全や著しい不整脈

17	89	脳卒中	脳卒中片麻痺患者への歩行指導について正しい記述はどれか。	歩行訓練開始時に歩行器を使用させる。	感覚障害が強い患者にはプラスチック製短下肢装具を使用させる。	見守り歩行では介助者は患者の健側に位置する。	3動作歩行では杖をついた後は患側下肢を前に出させる。	4	1. 平行棒からはじめる。 2. 短下肢装具は感覚障害とは関係なく使用する。 3. 患側に位置する。 4. 正解
18	88	脳卒中	脳卒中片麻痺患者に用いる装具はどれか。	短下肢装具	免荷装具	股関節装具	腰椎装具	1	脳卒中片麻痺の回復期や維持期では痙性麻痺から共同運動の状態である。また片側の障害であり体重の支持がし易い。よって、足関節の底屈を制限する短下肢装具が用いられる。なお、初期は長下肢装具を用いる場合があるが、実用的には短下肢装具である。 1. 正解 2. 切断など体重を分散させる必要がある場合に用いる 3. 股関節傷害 4. 腰椎骨折など
19	89	脳卒中	脳卒中のリハビリテーションで、国際障害分類(ICIDH)で定義された能力低下に対して行うのはどれか。	関節可動域訓練	麻痺側促通訓練	利き手変換現象	持久性訓練	3	
19	90	脳卒中	脳卒中急性期における良肢位で正しいのはどれか。	肩関節外転	手関節掌屈	足関節底屈	手指伸展	1	
20	90	脳卒中	肩手症候群の症状で最も適切なのはどれか。	手指末端の壊死	肩関節亜脱臼	手掌のしびれ	手背の腫脹	4	
21	87	脳卒中	脳卒中片麻痺患者に用いる装具はどれか。	PTB式免荷装具	股関節外転装具	金属支柱付膝装具	靴べら式短下肢装具	4	

21	89	脳卒中	脳卒中片麻痺患者の対応で適切な記述はどれか。	患側の可動域訓練では素早く関節を動かす。	麻痺側の肩関節亜脱臼は徒手の整復を行う。	杖の高さは床から臍部の高さまでとする。	利き手が完全麻痺の場合は利き手交換訓練を行う。	4	
22	87	脳卒中	片麻痺患者が使う自走式車いすで両手駆動から変更すべき構造はどれか。	駆動輪の直径を小さくする	座面の高さを低くする	背もたれの高さを低くする	麻痺側のブレーキレバーを短くする	2	
22	89	脳卒中	脳卒中のリハビリテーション中に起こる骨折の特徴で正しいのはどれか。	健側下肢が多い	抗血栓剤の内服で起こりやすい	半側空間無視の合併で起こりやすい	失語衣装の合併で起こりやすい	3	
23	83	脳卒中	脳卒中の左大脳半球損傷でよくみられる障害はどれか。	球麻痺	失語症	左片麻痺	左半側空間無視	2	
24	83	脳卒中	脳卒中の肩手症候群に対するリハビリテーションで正しいのはどれか。	温熱療法は禁忌である。	頸椎牽引が有効である。	関節可動域訓練は禁忌である。	星状神経節ブロックが有効である。	4	
25	84	脳卒中	右大脳半球の脳卒中でよくみられるのはどれか。	右片麻痺	球麻痺	失語症	左半側空間無視	4	
28	73	脳卒中	脳卒中の急性期リハビリテーションについて正しいのはどれか。	神経症状の増悪がある場合には動作を伴う訓練は行わない。	起立性低血圧に対する配慮は必要ない。	歩行訓練で長下肢装具を用いることはない。	ベッド上でのポジショニングは必要ない。	1	
28	83	脳卒中	脳卒中片麻痺患者の動作について正しいのはどれか。	衣服を着るときは健側から行う。	ベッドでの起き上がりは患側を下にする。	歩行時には杖を健側で持つ。	階段は患側から上がる。	3	
29	76	脳卒中	脳血管障害における摂食嚥下障害について正しいのはどれか。	意識障害があっても経口摂取は継続する。	時間経過で回復することはない。	口腔ケアは誤嚥性肺炎予防に有効である。	むせなければ誤嚥は否定できる。	3	

	問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答	解説
1	96	脊髄損傷	脊髄損傷患者の訓練で正しいのはどれか。	起立時に血圧が上がりますので注意する。	頸髄損傷ではベッドと車椅子との移乗動作は無理である。	自動車の運転は勧められない。	腰髄損傷では歩行訓練ができる。	4	
2	95	脊髄損傷	脊髄損傷について誤っている記述はどれか。	褥瘡の予防が必要である。	ブッシュアップ訓練が必要である。	尿路管理が必要である。	頸髄損傷では大振り歩行訓練が必要である。	4	
3	95	脊髄損傷	上位胸髄の脊髄損傷患者の訓練として適切でないのはどれか。	ブッシュアップ	キャストアップ	移乗動作	四点歩行	4	
1	96	脊髄損傷	脊髄損傷患者の訓練で正しいのはどれか。	起立時に血圧が上がりますので注意する。	頸髄損傷ではベッドと車椅子との移乗動作は無理である。	自動車の運転は勧められない。	腰髄損傷では歩行訓練ができる。	4	
2	95	脊髄損傷	脊髄損傷について誤っている記述はどれか。	褥瘡の予防が必要である。	ブッシュアップ訓練が必要である。	尿路管理が必要である。	頸髄損傷では大振り歩行訓練が必要である。	4	
3	95	脊髄損傷	上位胸髄の脊髄損傷患者の訓練として適切でないのはどれか。	ブッシュアップ	キャストアップ	移乗動作	四点歩行	4	
4	94	脊髄損傷	第6頸髄節まで機能残存の脊髄損傷患者が可能な動作で誤っているのはどれか。	肩の外転	肘の屈曲	手関節の背屈	手指の屈曲	4	
6	94	脊髄損傷	脊髄損傷患者の排尿について誤っている記述はどれか。	脊髄排尿中枢は仙髄にある。	残尿は尿路感染の原因となる。	持続カテーテル管理を第一目標とする。	弛緩性膀胱では用手圧迫により行う。	3	
7	95	脊髄損傷	C6損傷(第7頸髄節以下の損傷)の患者ができない動作はどれか。	寝返り動作	坐位保持	移乗動作	起立動作	4	
8	94	脊髄損傷	脊髄損傷の理学療法で誤っているのはどれか。	1日2回の体位変換を行う。	呼吸訓練を行う。	褥創予防にブッシュアップを行う。	下位腰髄損傷では実用的な歩行を目指す。	1	
9	94	脊髄損傷	頸髄損傷患者の障害でないのはどれか。	四肢麻痺	失禁	嚥下障害	肺活量低下	3	
11	95	脊髄損傷	頸髄損傷急性期にみられない症状はどれか。	腸閉塞	弛緩性運動麻痺	反射性排尿	発汗障害	3	
12	94	脊髄損傷	脊髄損傷による膀胱直腸障害でないのはどれか。	無尿	失禁	尿閉	便秘	1	

13	94	脊髄損傷	脊髄損傷完全麻痺について正しい組合せはどれか。	第3頸髄レベル——人工呼吸器	第7頸髄レベル——電動車いす	第3胸髄レベル——長下肢装具	第12胸髄レベル——短下肢装具	1	
14	92	脊髄損傷	頸髄損傷の症状で誤っているのはどれか。	関節炎所性骨化	起立性低血圧	観念運動失行	体温調節障害	3	
17	90	脊髄損傷	胸髄レベルの脊髄損傷完全麻痺患者について正しい記述はどれか。	1. 横隔膜麻痺がある。	排便障害がみられる。	下肢の筋緊張が低下する。	移動には電動車椅子が必要である。	2	1. 横隔神経はC3-5支配。 2. 正解 3. 初期は弛緩性であるが、完全麻痺の段階では痙攣性麻痺である。 4. C4までは電動車椅子。
20	91	脊髄損傷	第6頸髄レベルの脊髄損傷患者の合併症とその対応との組合せで正しいのはどれか。	うつ熱——解熱剤投与	殿部褥瘡——ブッシュアップ	尿路感染——間欠導尿	自律神経過反射——下肢挙上	3	
21	90	脊髄損傷	脊髄損傷による完全対麻痺患者に対する社会復帰支援で正しいのはどれか。	電動車いすでの屋外移動	下肢装具での実用歩行	自動車運転免許の取得	入浴サービスの手配	3	
22	90	脊髄損傷	脊髄損傷患者に生じる自律神経過反射で正しいのはどれか。	腰髄損傷患者に生じる	起立性低血圧を生じる	尿の膀胱内貯留が誘因となる	損傷部位以下の反射が消失する	3	
23	84	脊髄損傷	第6頸髄節残存の頸髄損傷患者が行えるADLはどれか。	ブッシュアップを用いた座位移動	両松葉杖使用での大振り歩行	機能的把持装具を用いたつまみ動作	スプリングパランサーを用いた食事動作	3	
24	84	脊髄損傷	第7頸髄節残存の脊髄損傷後に生じる合併症とその対応の組合せで最も適切なものはどれか。	起立性低血圧——座位保持	殿部褥瘡——ブッシュアップ	排尿障害——持続留置カテーテル	自律神経過反射——下肢弾性ストッキング	2	
26	84	脊髄損傷	脊髄損傷において、肘の伸展によるブッシュアップが可能となる脊髄節残存高位はどれか。	C4	C5	C6	C7	4	
27	83	脊髄損傷	C7完全麻痺の脊髄損傷者が目標とするADLとして正しいのはどれか。	人工呼吸器からの離脱	BFOによる食器の自立	車椅子駆動の自立	歩行の獲得	3	
28	84	脊髄損傷	脊髄損傷の損傷レベルとkey muscle(主たる残存筋)の組合せで正しいのはどれか。	C5——上腕三頭筋	C8——深指屈筋	L3——腸腰筋	L4——下腿三頭筋	2	
29	77	脊髄損傷	C6完全麻痺の脊髄損傷患者が目標とするADLとして正しいのはどれか。	人工呼吸器からの離脱	環境制御装置の利用	移乗動作の自立	坂道での車椅子駆動の自立	3	

	問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答
1	95	脳性麻痺	脳性麻痺で誤っているのはどれか。	単なる運動麻痺ではなく運動発達障害の要素が多い。	最初は筋緊張が低く次第に異常筋緊張を示すことが多い。	四肢麻痺であるから訓練が難しい。	けいれんのコントロールが大切である。	3
2	94	脳性麻痺	脳性麻痺について誤っている記述はどれか。	けいれん発作のコントロールが必要である。	精神発達遅滞と麻痺の程度とは無関係である。	訓練法としてボバース法、ボイタ法などがある。	訓練は学齢期から開始する。	4
1	95	脳性麻痺	脳性麻痺で誤っているのはどれか。	単なる運動麻痺ではなく運動発達障害の要素が多い。	最初は筋緊張が低く次第に異常筋緊張を示すことが多い。	四肢麻痺であるから訓練が難しい。	けいれんのコントロールが大切である。	3
2	94	脳性麻痺	脳性麻痺について誤っている記述はどれか。	けいれん発作のコントロールが必要である。	精神発達遅滞と麻痺の程度とは無関係である。	訓練法としてボバース法、ボイタ法などがある。	訓練は学齢期から開始する。	4
6	95	脳性麻痺	脳性麻痺について正しい記述はどれか。	障害は1歳ころまで現れてこない。	知的能力と機能障害とは一致しない。	呼吸障害は伴わない。	感覚障害は伴わない。	2
9	93	脳性麻痺	脳性麻痺について正しい記述はどれか。	痙直型は腱反射が低下する。	アテトーゼ型は不随意運動がみられない。	失調型は平衡機能が保たれる。	弛緩型は抗重力姿勢が保てない。	4
11	93	脳性麻痺	脳性麻痺について誤っている組合せはどれか。	痙直型——腱反射亢進	弛緩型——抗重力姿勢保持困難	強剛型——関節拘縮	アテトーゼ型——鉛管現象	4
14	93	脳性麻痺	脳性麻痺の病型として誤っているのはどれか。	感覚障害型	運動失調型	痙直型	アテトーゼ型	1
15	91	脳性麻痺	脳性麻痺でみられにくいのはどれか。	尿閉	けいれん	嚥下障害	言語発達遅延	1
20	86	脳性麻痺	正常な6カ月児で可能な動作はどれか。	おもちゃをつかむ。	ビー玉をつまむ。	手放して立つ。	ひとり歩きをする。	1
21	91	脳死麻痺	脳性麻痺について正しい記述はどれか。	脊髄病変が関与する。	運動の永続的障害である。	進行性病変である。	生後4カ月以降に生じる。	2
23	85	脳性麻痺	小児疾患と障害の組合せで正しいのはどれか。	ポリオ — 球麻痺	進行性筋ジストロフィー症 — 両麻痺	二分脊椎 — 対麻痺	ダウン症 — 片麻痺	3
25	83	脳性麻痺	一生続く姿勢反射はどれか。	自動歩行	モロー反射	パラシュート反射	非対称性緊張性頸反射	3
25	86	脳性麻痺	脳性麻痺の定義について正しいのはどれか。	進行性病変に基づく。	永続的な運動障害である。	脊髄病変も関与する。	症状は生後4週以内に発現する。	2
28	86	脳性麻痺	脳性麻痺について正しいのはどれか。	早期診断は容易である。	診断が確定してから介入する。	運動発達は自然に任せる。	家族への保育指導を行う。	4
29	78	脳性麻痺	脳性麻痺について正しいのはどれか。	自閉症を合併することが多い。	原因に進行性の疾患が含まれる。	生下時より骨変形をきたしている。	麻痺が進行することはない。	4

問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答	解説
5	96	神経疾患 末梢神経損傷で誤っている記述はどれか。	神経伝導速度検査で異常を示す。	支配領域の発汗障害をきたす。	損傷軸索の再生時にチネル徴候がみられる。	ニューラプタキシアは神経の完全切断である。	4	
8	95	神経疾患 末梢神経損傷におけるリハビリテーションとその目的との組合せで誤っているのはどれか。	関節可動域訓練——拘縮の予防	自動介助運動——筋の再教育	装具の装着——変形の予防	自助具の使用——筋力の強化	4	
10	93	神経疾患 末梢神経麻痺と装具との組合せで適切でないのはどれか。	正中神経麻痺——対立副子	尺骨神経麻痺——ナックルベンダー	総腓骨神経麻痺——短下肢装具	脛骨神経麻痺——長下肢装具	4	
12	96	神経疾患 神経麻痺と装具との組合せで正しいのはどれか。	正中神経麻痺——長対立副子	尺骨神経麻痺——コックアップスプリント	大腿神経麻痺——短下肢装具	総腓骨神経麻痺——PTB免荷装具	1	
16	91	末梢神経障害 橈骨神経麻痺に伴う症状として誤っているのはどれか。	下垂手	母指球筋の萎縮	手背の知覚障害	手背の発汗障害	2	1. 橈骨神経障害による手関節伸筋の麻痺による 2. 正中神経障害 3. 橈骨神経の知覚神経領域は手背側側 4. 橈骨神経の皮膚支配領域(自律神経を含む)は手背側側
18	91	末梢神経障害 四肢の末梢神経麻痺のリハビリテーションで行わないのはどれか。	関節可動域訓練	低周波治療	装具療法	温熱療法	4	末梢神経麻痺ということは、感覚麻痺も起こっている。 1. 運動麻痺の対応として正しい 2. 筋運動の誘発や麻痺神経の刺激で用いられる 3. 運動麻痺の対応として正しい 4. 温熱感覚が麻痺している場合、過剰な熱刺激で熱症を起こす可能性があるためあまり用いられない。
19	91	装具 末梢神経障害と装具との組合せで正しいのはどれか。	正中神経麻痺——対立装具	尺骨神経麻痺——トーマススプリント	橈骨神経麻痺——ナックルベンダー	脛骨神経麻痺——長下肢装具	1	
23	88	神経疾患 重症の筋萎縮性側索硬化症のリハビリテーションとして最も必要なのはどれか。	低出力レーザーによる温熱療法	ベグボードによる巧緻動作訓練	バランスボードによるバランス訓練	意思伝達装置によるコミュニケーション訓練	4	
25	88	神経疾患 短対立装具の適応となるのはどれか。	正中神経麻痺	尺骨神経麻痺	橈骨神経麻痺	腋窩神経麻痺	1	
26	81	神経疾患 筋萎縮性側索硬化症患者における人工呼吸器装着後のリハビリテーションで適切なものはどれか。	歩行訓練	更衣訓練	排便訓練	起き上がり訓練	3	
26	85	装具 疾患と装具の組合せで誤っているのはどれか。	変形性膝関節症——足底装具	腰椎椎間板ヘルニア——軟性コルセット	脳梗塞——短下肢装具	総腓骨神経麻痺——長下肢装具	4	
27	85	神経疾患 痙性麻痺がある脳性麻痺患者に対してよく行われる治療はどれか。	向精神薬投与	頸椎除圧固	ボツリヌス療法	人工膝関節	3	

	問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答
1	93	整形外科	慢性関節リウマチの理学療法で正しいのはどれか。	急性増悪期にも安静は不要である。	スプリントを使う場合は自動運動を終日禁じる。	慢性期には変形予防が必要である。	筋力強化は行わない。	3
1	93	整形外科	慢性関節リウマチの理学療法で正しいのはどれか。	急性増悪期にも安静は不要である。	スプリントを使う場合は自動運動を終日禁じる。	慢性期には変形予防が必要である。	筋力強化は行わない。	3
4	95	整形外科	慢性関節リウマチで正しい記述はどれか。	関節炎は大関節に起こりやすい	進行しても関節拘縮は起こさない	手指の尺側偏位を起こしやすい	内臓病変を伴わない	3
4	96	整形外科	変形性膝関節症について誤っている記述はどれか。	関節組織の退行変性による	肥満は進行を助長する	膝の外反変形を生じやすい	大腿四頭筋の萎縮が起こる	3
5	96	整形外科	末梢神経損傷で誤っている記述はどれか。	神経伝導速度検査で異常を示す。	支配領域の発汗障害をきたす。	損傷軸索の再生時にチネル徴候がみられる。	ニューラプタキシアは神経の完全切断である。	4
6	96	整形外科	腰痛の治療について誤っている記述はどれか。	運動療法により姿勢の改善を図る。	ウィリアムス体操は腰椎の伸展訓練である。	間欠牽引はマッサージ効果を期待する。	軟性コルセットは腹圧を高め症状を軽減する。	2
8	95	整形外科	末梢神経損傷におけるリハビリテーションとその目的との組合せで誤っているのはどれか。	関節可動域訓練——拘縮の予防	自動介助運動——筋の再教育	装具の装着——変形の予防	自助具の使用——筋力の強化	4
9	95	整形外科	慢性関節リウマチの理学療法で適切でない記述はどれか。	全身訓練により呼吸運動の維持を図る。	関節可動域訓練は愛護的に行う。	筋力維持増強訓練は他動運動を中心に行う。	疼痛を軽減する目的でホットバックを用いる。	3
9	96	整形外科	変形性膝関節症について誤っている記述はどれか。	肥満は悪化要因になる。	進行すると外反変形を生じやすい。	大腿四頭筋の徒手抵抗運動を行う。	側方不安定性には装具を用いる。	2
10	93	整形外科	末梢神経麻痺と装具との組合せで適切でないのはどれか。	正中神経麻痺——短対立副子	尺骨神経麻痺——ナックルベンダー	総腓骨神経麻痺——短下肢装具	脛骨神経麻痺——長下肢装具	4
11	91	整形外科	関節リウマチのリハビリテーションで誤っている記述はどれか。	運動時痛を伴う間は関節の安静を保つ。	筋力強化は等尺性運動を基本とする。	関節可動域訓練は可動範囲いっぱい動かす。	疼痛を軽減する目的で温熱療法を併用する。	1
12	96	整形外科	神経麻痺と装具との組合せで正しいのはどれか。	正中神経麻痺——長対立副子	尺骨神経麻痺——コックアップスプリント	大腿神経麻痺——短下肢装具	総腓骨神経麻痺——PTB免荷装具	1

13	96	整形外科	大腿骨頸部骨折で手術直後に行わないのはどれか。	創部へのホットパック	両下肢の関節可動域訓練	ベッド上での体位交換	車いす座位訓練	1
14	94	整形外科	腰痛患者のリハビリテーションで誤っているのはどれか。	膝と股関節を軽く屈曲して寝るように指導する	物を持ち上げる際には中腰姿勢をとるように指導する	腹筋の筋力増強訓練をする	股関節のストレッチ体操を指導する	2
15	86	整形外科	関節リウマチ患者の筋力増強法として最も適切なものはどれか。	等運動性訓練	求心性筋収縮訓練	遠心性筋収縮訓練	等尺性筋収縮訓練	4
24	87	整形外科疾患	変形性股関節症に対する運動療法で最も適切なものはどれか。	階段昇降	水中歩行	ジョギング	トランポリン	2
26	83	整形外科疾患	腰痛体操はどれか。	フレンケル体操	クラップ体操	マッケンジー体操	バージャー体操	3
27	87	整形外科疾患	変形性膝関節症に対する運動療法で最も適切なものはどれか。	階段昇降	水中歩行	ジョギング	自転車エルゴメーター	2
28	88	整形外科疾患	大腿骨頸部骨折について正しいものはどれか。	交通事故による受傷が最も多い。	寝たきりの原因となることが多い。	安静期間において手術を行うことが推奨される。	術後8週以降で荷重訓練を開始することが多い。	2
29	80	整形外科疾患	骨折に注意してリハビリテーションを行う必要のある疾患はどれか。	腰椎椎間板ヘルニア	腰部脊柱管狭窄症	転移性脊椎腫瘍	筋筋膜性腰痛	3

	問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答
1	93	リウマチ	慢性関節リウマチの理学療法で正しいのはどれか。	急性憎悪期にも安静は不要である。	スプリントを使う場合は自動運動を終日禁じる。	慢性期には変形予防が必要である。	筋力強化は行わない。	3
1	93	リウマチ	慢性関節リウマチの理学療法で正しいのはどれか。	急性憎悪期にも安静は不要である。	スプリントを使う場合は自動運動を終日禁じる。	慢性期には変形予防が必要である。	筋力強化は行わない。	3
4	95	リウマチ	慢性関節リウマチで正しい記述はどれか。	関節炎は大関節に起こりやすい	進行しても関節拘縮は起こさない	手指の尺側偏位を起こしやすい	内臓病変を伴わない	3
9	95	リウマチ	慢性関節リウマチの理学療法で適切でない記述はどれか。	全身訓練により呼吸運動の維持を図る。	関節可動域訓練は愛護的に行う。	筋力維持増強訓練は他動運動を中心に行う。	疼痛を軽減する目的でホットパックを用いる。	3
11	91	リウマチ	関節リウマチのリハビリテーションで誤っている記述はどれか。	運動時痛を伴う間は関節の安静を保つ。	筋力強化は等尺性運動を基本とする。	関節可動域訓練は可動範囲いっぱい動かす。	疼痛を軽減する目的で温熱療法を併用する。	1
15	86	リウマチ	関節リウマチ患者の筋力増強法として最も適切なものはどれか。	等運動性訓練	求心性筋収縮訓練	遠心性筋収縮訓練	等尺性筋収縮訓練	4
23	87	リウマチ	関節リウマチ患者によく用いる自助具はどれか。	リーチャー	筆談ボード	ユニバーサルカフ	トランスファーボード	3
26	88	リウマチ	ステージⅠの関節リウマチの非活動期に行うリハビリテーションで最も適切なものはどれか。	関節の安静	軽い自動運動	コッドマン体操	筋力強化訓練	2・4
29	81	リウマチ	関節リウマチに特徴的なものはどれか。	環軸関節亜脱臼	下垂手	反張膝	内反尖足	1

24	88	9	191	リハビリ	パーキンソン		パーキンソン病のヤール分類とリハビリテーションの組合せで最も適切なものはどれか。	ステージⅠ 歩行訓練	ステージⅡ 立ち上がり動作訓練	ステージⅢ 立位バランス訓練	ステージⅣ 電動車椅子操作訓練	3
27	88	9	216	リハビリ	パーキンソン		パーキンソン病の歩行障害に対する訓練で最も有効なのはどれか。	つぎ足歩行訓練	松葉杖を用いた歩行訓練	両長下肢装具を用いた歩行訓練	外ロノームを用いた歩行訓練	4
29	82	9	238	リハビリ	パーキンソン		パーキンソン病患者の理学療法で外ロノームを用いて改善が期待されるのはどれか。	小刻み歩行訓練	構音障害	書字障害	振戦	1

	問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答
2	89	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患の訓練法として誤っているのはどれか。	腹式呼吸	口ひろげ呼吸	排痰訓練	全身調整運動	2
2	89	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患の訓練法として誤っているのはどれか。	腹式呼吸	口ひろげ呼吸	排痰訓練	全身調整運動	2
5	94	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患の理学療法で誤っているのはどれか。	リラクゼーション	胸式呼吸	体位排痰	歩行訓練	2
7	96	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーションで適切でないのはどれか。	気道の清浄化	胸郭のストレッチ	呼吸補助筋を使った呼吸	口すぼめ呼吸訓練	3
10	92	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患に対する肺理学療法で誤っているのはどれか。	深い呼吸	ゆっくりとした呼吸	呼吸補助筋を使った呼吸	横隔膜を使った呼吸	3
11	96	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患に対する理学療法で誤っているのはどれか。	残気量の増大	換気量の増大	1秒率の増大	気道分泌物の排出	1
13	95	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション内容で誤っているのはどれか。	リラクゼーション	口すぼめ呼吸	速い呼吸パターン指導	四肢・体幹の筋力強化	3
22	88	呼吸器疾患	強制呼吸に作用する筋で正しいのはどれか。	胸鎖乳突筋	大胸筋	横隔膜	内肋間筋	4
23	86	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患患者に対する在宅での自主訓練で最も適切なのはどれか。	口すぼめ呼吸	叩打法	スクイー징	バイブレーション	1
28	87	呼吸器疾患	呼吸理学療法と目的の組合せで正しいのはどれか。	腹式呼吸訓練———回換気量増大	胸郭モビライゼーション———虚脱した気道の拡張	体位ドレナージ———吸気機能強化	口すぼめ呼吸———咳嗽機能強化	1
29	79	呼吸器疾患	COPDの呼吸筋トレーニングはどれか。	水の入ったビンを吹く。	リラクゼーションを行う。	スクイー징を行う。	エルゴメータで訓練を行う。	1

問題番号	2022/2/12	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答
2	96	心疾患 心疾患の運動負荷試験について誤っている記述はどれか。	マスター2階段法は段差を次第に高くする。	トレッドミルはベルトの傾斜やスピードを変化させる。	自転車エルゴメーターは運動量をワット単位で表示できる。	負荷が過大になれば心電図異常が出現しやすい。	1
3	89	心疾患 運動の強度メッツ(METS)について正しい組合せはどれか。	散歩——1-2	ボーリング——2-4	ジョギング——5-6	登山——7-8	2
2	96	心疾患 心疾患の運動負荷試験について誤っている記述はどれか。	マスター2階段法は段差を次第に高くする。	トレッドミルはベルトの傾斜やスピードを変化させる。	自転車エルゴメーターは運動量をワット単位で表示できる。	負荷が過大になれば心電図異常が出現しやすい。	1
3	89	心疾患 運動の強度メッツ(METS)について正しい組合せはどれか。	散歩——1-2	ボーリング——2-4	ジョギング——5-6	登山——7-8	2
8	96	心疾患 心疾患における運動強度の指標として適切でないのはどれか。	6分間歩行テスト	メッツ(METS)	脈拍数	血圧	1
24	86	心疾患 急性心筋梗塞後のリハビリテーションについて最も適切なものはどれか。	外来では行わない。	6週間プログラムで行う。	負荷試験をしながら進める。	最大酸素摂取量での心拍数まで行う。	3
25	87	心疾患 心臓リハビリテーションの適応となるものはどれか。	うつ血性心不全(NYHA IV度)	急性大動脈解離	高度な大動脈弁狭窄	冠動脈バイパス術後	4
27	86	心疾患 心臓リハビリテーションにおける運動負荷試験の中止基準として正しいものはどれか。	疲労	息切れ	筋肉痛	チアノーゼ	4

	問題番号	小項目名	問題文	選択枝1	選択枝2	選択枝3	選択枝4	答	解説
1	90	運動学	正常歩行の周期について誤っているのはどれか。	歩行周期には立脚期と遊脚期とがある。	立脚中期には全体重が一方の足にかかる。	立脚期と遊脚期の時間的割合は6対4である。	両足が遊脚期になる時がある。	4	
1	91	運動学	筋収縮について誤っているのはどれか。	求心性収縮とは張力を発生しながら筋肉の長さが短くなること。	遠心性収縮とは張力発生的一方で筋肉の長さが長くなること。	等尺性収縮とは張力を発生するが筋肉の長さは変わらないこと。	等張性収縮とは筋肉の長さの変化に応じて張力が等しく発生すること。	4	
2	90	運動学	手の内在筋はどれか。	浅指屈筋	深指屈筋	指伸筋	虫様筋	4	
3	92	運動学	異常歩行について正しい記述はどれか。	脚長差が3cm以内であれば異常は目立たない。	疼痛性跛行では患側の立脚相の時間が長くなる。	脳卒中片麻痺では足の内側から接地する。	小きざみ歩行は筋ジストロフィー症にみられる。	1	
1	90	運動学	正常歩行の周期について誤っているのはどれか。	歩行周期には立脚期と遊脚期とがある。	立脚中期には全体重が一方の足にかかる。	立脚期と遊脚期の時間的割合は6対4である。	両足が遊脚期になる時がある。	4	
1	91	運動学	筋収縮について誤っているのはどれか。	求心性収縮とは張力を発生しながら筋肉の長さが短くなること。	遠心性収縮とは張力発生的一方で筋肉の長さが長くなること。	等尺性収縮とは張力を発生するが筋肉の長さは変わらないこと。	等張性収縮とは筋肉の長さの変化に応じて張力が等しく発生すること。	4	
2	90	運動学	手の内在筋はどれか。	浅指屈筋	深指屈筋	指伸筋	虫様筋	4	
3	92	運動学	異常歩行について正しい記述はどれか。	脚長差が3cm以内であれば異常は目立たない。	疼痛性跛行では患側の立脚相の時間が長くなる。	脳卒中片麻痺では足の内側から接地する。	小きざみ歩行は筋ジストロフィー症にみられる。	1	
4	90	運動学	歩行周期の遊脚相に含まれるのはどれか。	踵接地	足底接地	加速期	踏み切り	3	
4	91	運動学	異常歩行と原因の組合せて誤っているのはどれか。	酩酊歩行——小脳疾患	小刻み歩行——パーキンソン病	アヒル歩行——筋ジストロフィー	鶏歩——股関節脱臼	4	
5	90	運動学	筋収縮について正しい記述はどれか。	等張性収縮は等尺性収縮より筋持久力の増大効果がある。	等張性収縮は等尺性収縮より循環器系へ負担がかかる。	等張性収縮はギブス固定中の関節の運動に適している。	等尺性収縮は遠心性収縮と求心性収縮とに分けられる。	1	
5	92	運動学	正しい立位するとき重心線が通る身体部位で誤っているのはどれか。	肩峰	大転子	膝関節後面	外果	3	
5	93	運動学	トレンデレンブルグ歩行の原因となる筋はどれか。	中殿筋	大殿筋	大腿四頭筋	前脛骨筋	1	

6	91	運動学	正常立位姿勢のとき矢状面で人体の重心線が通過する部位として誤っているのはどれか。	乳様突起付近	第2仙椎の少し前方	股関節の前方	膝関節の前方	3	
6	92	運動学	歩行について誤っている記述はどれか。	1サイクルは2歩に相当する。	二重支持期がない場合は走行となる。	重心の軌跡はサインカーブを描く。	バランスの悪い人は歩隔が狭くなる。	4	
7	91	運動学	効率の良い歩き方の特徴はどれか。	立脚中期で膝関節は屈曲しない。	重心は水平に移動する。	骨盤は左右に移動する。	骨盤は回旋しない。	3	
8	90	運動学	股関節について誤っている記述はどれか。	大腿骨頭の約2/3は寛骨臼の中にある。	正常の頸体角は約120-130度である。	ハムストリングスは屈曲に作用する。	屈曲角度は膝の伸展時より屈曲時の方が大きい。	3	
8	91	運動学	正常歩行において遊脚期に活動がみられない筋はどれか。	前脛骨筋	ヒラメ筋	大腿四頭筋	腸腰筋	2	
9	90	運動学	手根管を通過しないのはどれか。	浅指屈筋腱	深指屈筋腱	正中神経	尺骨神経	4	
9	91	運動学	正常歩行周期について誤っている記述はどれか。	立脚期と遊脚期の比率は6対4である。	重心が最も低くなるのは立脚中期である。	骨盤の回旋は重心の上下動を小さくする。	一側の膝関節は屈曲と伸展をそれぞれ2回行う。	2	
10	90	運動学	肩の腱板を形成しない筋はどれか。	大円筋	肩甲下筋	棘上筋	小円筋	1	
11	92	運動学	歩行時の重心移動を滑らかにする身体の仕組みで誤っている記述はどれか。	立脚中期に膝関節が屈曲する。	遊脚側の骨盤が前方に回旋する。	骨盤が立脚側に側方移動する。	遊脚側の骨盤が拳上する。	4	
12	91	運動学	正常歩行の立脚中期から後期にかけて強く収縮する筋はどれか。	大腿四頭筋	ハムストリングス	前脛骨筋	下腿三頭筋	4	
15	89	運動学	歩行周期の踵設置時に筋活動を認めない筋はどれか。	大殿筋	前脛骨筋	ヒラメ筋	大内転筋	3	

16	88	関節	膝関節で誤っている記述はどれか。	屈伸運動では、ころがり運動と滑り運動を伴う。	伸展運動の最終時期に、大腿骨に対して脛骨は外旋する。	外側側副靱帯は膝関節の外反を防ぐ。	前十字靱帯は大腿骨に対する脛骨の前方移動を防ぐ。	3	1. 膝関節は屈曲初期に大腿骨が脛骨上をころがり運動し、後に滑り運動に移行して完全屈曲する。 2. 脛骨に対して大腿骨が内旋して固定されて安定する。選択肢の文章をこれを逆に記載しただけである。 3. 外側側副靱帯は内反を防ぐ働きが強い。 4. 正解
16	89	歩行	正常歩行周期において二重支持期の割合として正しいのはどれか。	60%	40%	20%	5%	3	1. 歩行で60%という数字は立脚期に相当する 2. 歩行で40%という数字は遊脚期に相当する 3. 正解 二重支持期は15～25% 4. 不正解
17	85	運動の仕組み	足の内側縦アーチを構成する骨で誤っているのはどれか。	踵足	舟状骨	立方骨	第1中足骨	3	1. 正解 2. 正解 3. 誤り 外側縦アーチの構成 4. 正解
17	86	運動の仕組み	肩関節の外転運動で誤っている記述はどれか。	肩甲骨は上方回旋する。	肩甲骨と肩甲上腕関節の動きの割合はおよそ2対1である。	腱板は上腕骨頭を肩甲骨関節窩に保持、安定させる。	鎖骨が同時に動く。	2	1. 正解 2. 2対1ではなく、1対2である。 3. 正解 4. 正解

17	87	運動の仕組み	歩幅が一定のまま歩行率(ケイデンス)が増加したときに正しい記述はどれか。	歩幅が小さくなる。	歩行速度が上がる。	1歩行周期の時間が長くなる。	歩行周期における二重支持期の割合は変化しない。	2	歩行率は歩数/分で表す。歩幅が変わらなければ、1分間の走行距離が伸びて歩行速度が上がる。 1. 歩幅は左右の足の広さで、失調症等で大きくなる。 2. 正解 3. 1歩行周期の時間は短くなる。 4. 二重支持期の割合は歩行速度によって変化する。
19	88	運動学	肩甲骨上腕リズムで正しいのはどれか。	肩甲骨上方回旋15度・肩関節外転75度	肩甲骨上方回旋30度・肩関節外転60度	肩甲骨上方回旋60度・肩関節外転30度	肩甲骨上方回旋75度・肩関節外転15度	2	
20	89	運動学	上肢の屈筋共同運動で正しい組合せはどれか。	肩甲骨帯 ― 下制	肩関節 ― 内旋	肘関節 ― 屈曲	前腕 ― 回旋内	3	
21	88	運動学	異常歩行とその原因疾患との組合せで正しいのはどれか。	小刻み歩行 ― パーキンソン病	トレンデレンブルグ歩行 ― 変形性膝関節症	失調性歩行 ― 脊髄損傷	痙性歩行 ― ギラン・バレー症候群	1	
22	85	運動学	小脳性失調の所見として正しいのはどれか。	構音障害	羽ばたき振戦	はさみ脚歩行	ロンベルグ徴候陽性	1	
23	82	運動学	膝関節について正しいのはどれか。	最大屈曲位では固定される。	内側側副靭帯は伸展位でゆるむ。	前十字靭帯は脛骨の前方移動を制限する。	大腿二頭筋を内側ハムストリングスと呼ぶ。	3	
24	82	運動学	正常歩行について正しいのはどれか。	歩行速度が遅くなると二重支持期は短くなる。	1歩行周期に側の膝関節は2回屈曲する。	一側の踵接地からつま先離れまでを1歩という。	一側の踵と他側のつま先との間の距離を歩隔という。	2	
28	82	運動学	正常歩行のサイクルで正しいのはどれか。	立脚中期に全足接地をする。	二重支持期は40%である。	立脚相で膝関節は1回屈曲する。	遊脚相が立脚相より短い。	1	
29	75	運動学	正常歩行時に若年者より高齢者で増加するのはどれか。	歩幅	速度	前傾姿勢	骨盤回旋	3	